

季刊 旬のブンカが集うコミュニティマガジン

ブンカ

BUNKA

vol.
91
2023
winter



旬の文化が集うコミュニティマガジン 季刊
ブンカ
BUNKA vol.91 2023.12.15



Interview
世界的ホルン奏者が語る
ホルンの魅力と可能性

ホルンスト 福川伸陽氏



(公財)福井県文化振興事業団

発行/公益財団法人 福井県文化振興事業団 福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」
〒918-8152 福井市今市町40-1-1 ☎077-638-6288 <https://www.hhl.jp>



ハーモニーホールふくい

越前水仙(福井市・越前市・南越前町)



風と波の浸食でできた自然の大トンネル「呼鳥門」は、越前海岸を代表する景勝地。遊歩道が整備されていて、間近で見ることができる。



越前海岸の水仙畑
呼鳥門
場所/丹生郡越前町梨子ヶ平
アクセス
●JR福井駅より京福バス
茶崎線水仙ランド行き乗車
約70分 呼鳥門下車
●北陸自動車道鯖江ICより約50分
敦賀ICより約60分

可憐さの中に秘めた強さ
冬の絶景で癒される

福井の県花でもある、白く可憐な水仙の花。日本海の厳しい風雪に耐えながら咲く強さは、忍耐強い県民性に通じるともいわれています。冬の越前海岸では、水仙の白と緑に海と空とのコントラストが美しく、絶景スポットとして人気。甘くさわやかな香りは、癒しの作用もあるとされています。

3つの市町にまたがる海岸沿いの道は、絶好のドライブコース。ここは日本水仙の三大群生地のひとつに数えられ、急峻な斜面に連なる70ヘクタールの栽培面積は全国一位。令和3年には歴史と風土が根ざした暮らしの景観を受け継ぐ土地として、3市町それぞれの「越前海岸の水仙畑」が国の重要文化的景観に選定されました。

寒風の中で育つ越前水仙は、芯が強く花は締まり、茎や葉にもハリがあります。持ちもよく香りも豊かといわれ、高い品質が求められる正月の生け花用として人気が高いそう。慎ましやかなだけでなく実力も十分。ちよつと嬉しくなりませんか。

※表紙の写真は、魚眼レンズを付けたカメラで4方向360度撮影したものをパノラマ合成したものです。

Essay

芸術と響き合う越前和紙

文 朝倉由希



あさくらゆき●福井市生まれ・在住。京都大学文学部卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科応用音楽学博士後期課程修了。博士(学術)。アートマネジメント、文化政策を専門とする。2017年度から文化庁地域文化創生本部研究官。2021年4月から公立小松大学国際文化交流学部准教授。福井県芸術文化アドバイザー。共著に「文化で地域をデザインする―社会の課題と文化をつなぐ現場から」(学芸出版社、2020)など。

越前市五箇地区「和紙の里」にはいつも、特有の魅力を感じる。風土と生業が分かちがたく結びつき、自然と共存しながら紙を作ってきた歴史と、それを受け継ぎ次代に伝えていこうとする人々のエネルギーが、町全体に漂っている。紙漉きを伝えたとされる川上御前をまつる荘厳な岡太神社、良質な紙に欠かせない清らかな水、紙漉き屋のひしめく風情ある街並み、音、におい。その全てが五感を刺激する。



越前和紙を使用した作品にゆったりと向き合える「越前和紙の里美術館」。

は、明治時代の画法の変化があった。西洋美術の影響を受け、絵具を厚く、画面全体に塗る作風へと変化する中、それに対応した新しい画紙の開発が求められた。平三郎は画家や研究者との交流を重ね、意見を取り入れ、大正末期ごろに「雲肌麻紙」を生み出した。

とは、単なる紙ではなく、作品の色や風合いを創り出し、芸術家の表現を構成する重要な要素なのだ。芸術家と交流し、最高の技術で応えた紙の職人の努力が、和紙の新たな可能性を拓き、芸術表現の幅を広げてきた。芸術と響き合う越前和紙の魅力は、世界的に注目されている。

九代岩野市兵衛(1933年)が技術を伝えている「越前生漉奉書紙」も、木版画や美術品修復用紙として、世界で愛用されている。刷りの摩擦に耐えられる丈夫さと柔軟性を兼ね備え、発色が良く、保存性にも優れていて、木版画作品に欠かせない素材となっている。

越前市には、和紙だけでなく、筆筒や越前打刃物など、伝統工芸が集積している。さらに、市民による芸術文化活動がジャンルを問わず盛んに行われてきた。その越前市は、文化の持つ創造性を地域発展の土台に据えようと、創造都市政策を打ち出している。ユネスコの創造都市ネットワークには、現在国内で11都市が加盟しているが、越前市も加盟を目指す議論が始まっている。創造都市に加盟することで、国際的ネットワークが形成されるといふメリットもある。地域固有の歴史文化資源と創造的な活動にあふれ、十分なポテンシャルを持つ越前市の今後が楽しみです。

ホルニスト

福川伸陽

Nobuaki Fukukawa

世界的ホルン奏者が語る
ホルンの魅力と可能性



映画音楽好きの少年がホルンに目覚めるまで

ギネス記録では「世界でいちばん演奏するのが難しい金管楽器」として認定されているホルン。このホルンを自在に操り、現在日本のトップランナーとして活躍中なのが、今回ご紹介する福川伸陽さんです。2013年にNHK交響楽団に入団し、首席奏者を務めた後、2021年からソロのホルン奏者として、また金管アンサンブルARK BRASSのリーダーとして

て室内楽のジャンルにも活躍の場を広げています。福川さんが「世界一難しい楽器」ホルンに魅せられたきっかけはどんなタイミングで訪れたのでしょうか。「小学校時代から映画音楽が好きで、『インディ・ジョーンズ』や『スター・ウォーズ』などのサウンドトラックを聴いては、そこで大活躍するトランペットがカッコいいなあ」と憧れていたんです。それで中学校に入学して、トランペットが吹けるといって吹奏楽部に入部したんですが、なんとその年のトランペット・パートの定員は1名。僕ともう1人でじゃんけんして負けて、否応なくホルンに回されました。それがホルンとの出会いです(笑)」。憧れのトランペットを吹けなかったことではしょぼろしいた伸陽少年にお父様があるものを差し出します。モーツァルトのホルン協奏曲集のCDでした。「ホルンっていい楽器だなあ」と思っ、それからは楽器を鳴らすのに夢中になりました。中

学3年生の初めぐらいに将来のことを考えるタイミングが訪れて、自分にできることは何かと考えた時に「ホルンで食べていく」という考えが浮かんだんです。そこで音楽の先生に相談して、当時読売日本交響楽団の首席奏者だった丸山勉先生を紹介していただきました」

オーケストラで知った多彩なホルンの魅力

高校までは吹奏楽部の中でホルンを吹いていた福川さんですが、武蔵野音楽大学に進学して初めて、オーケストラにおけるホルンの立ち位置を知ることになります。「吹奏楽部ではとにかく、みんなで一つの方向に向かって取り組んでいくというのが楽しかった。ソロを吹くことはほとんどなかったの、ホルン自体のメロディや和音の美しさを感じる機会はそこまでなかったんです。しかし大学でオーケストラに入って、ホルン奏者としての方向性を改めて考えるようになりました。吹奏楽ではとにか

く大きい音量が求められますが、オーケストラでは弦楽器や木管楽器と溶け合うような小さい音が求められることもあれば、他の金管と一緒に大音量で演奏することもある。そうしたダイナミクスや音色の変化によって表現の幅が大きく広がっています」

何よりもこれほど変化に富んだ音色を持つ楽器は他にない、と福川さん。「僕はそうした表現力の多彩さを大切にしたいと考えています。こんな魅力的な楽器に出会えるなんて、あの時じゃんけんにかけてよかったです(笑)」

オルガンとのデュオで新たなホルンの世界を開拓

福川さんが今、力を入れて取り組んでいるのは、弦楽器やピアノに比べて少ないホルンのレパートリーを開拓すること。オルガンとのデュオという発想もそこから生まれたものだそうです。「オルガンは金属の管に空気を送り込んで音を出す、広い意

味では管楽器なんですよね。特に金管楽器とは相性がいいので、一緒に演奏したら素晴らしい世界が広がると思います」世界初演となるサン＝サーンス交響曲第3番「オルガン付き」のオルガンと金管五重奏による編曲版など、他では聴けない作品が目白押しコンサートがとても楽しみです。構成・文/室田尚子(音楽評論家)

愛知室内オーケストラ「ジョルジュ・リゲティ生誕100年記念」公演ではそれぞれ、ソリスト、指揮者として共演した福川伸陽(右)と鈴木優人(左)。2023年11月16日(木)、三井住友海上しらかわホールにて。

2024.3/3(日) 協賛:  平野興業株式会社

福川伸陽&鈴木優人 with FRIENDS
～ブラスとオルガンの芳醇な響き～

- 大ホール/開場 13:15 開演 14:00
- 全席指定・車いす席 ¥4,000 (小～大学生:半額)

出演/ホルン: 福川伸陽、オルガン: 鈴木優人
トランペット: 佐藤友紀、安藤友樹
トロンボーン: 青木 昂、チューバ: 次田心平
曲目/フォーレ: ビエ・イエス、J.S.バッハ: 目覚めよ、と呼ぶ声あり
ブルックナー(大橋晃一編): アダージョ、モーツァルト: アヴェ・ヴェルム・コルプス 
(共催: 福井テレビ、協力: 福井県吹奏楽連盟) ※詳細はP.8へ

ふくかわのぶあき●世界的に活躍している音楽家の一人。NHK交響楽団首席奏者としてオーケストラ界にも貢献した。ソリストとして、NHK交響楽団、バドヴァ・ヴェネト管弦楽団、京都市交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団他と共演。ロンドンのウィグモアホールをはじめ、ロサンゼルスやブラジル、アジア各国でリサイタルをするなど、世界各地から数多く招かれている。東京音楽大学准教授、国際ホルン協会評議員。



指揮：トマーシュ・ブラウネル

2024年のニューイヤーコンサートは、首席指揮者トマーシュ・ブラウネルに率いられたプラハ交響楽団が8年ぶりの登場となります。90年弱の長い伝統を持つプラハ響がお贈りするの、ラフマニ

ノフのピアノ協奏曲第2番とドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」という、名曲中の名曲です。すべてのラフマニノフ作品の中でもっともよく知られているのがピアノ協奏曲第2番

伝統のオーケストラが贈る 名曲中の名曲二選！

協賛：FBC FUKUI
ニューイヤーコンサート2024
トマーシュ・ブラウネル指揮
プラハ交響楽団
ピアノ：牛田智大

2024.1.7日

14:15開場 15:00開演／大ホール
S席・車いす席 ¥10,000 A席 ¥8,000
B席 ¥6,000 バックシート ¥4,000

(小～大学生：半額) 特別協賛会員・友の会会員 (2割引)

出演／指揮：トマーシュ・ブラウネル、ピアノ：牛田智大
管弦楽：プラハ交響楽団
曲目／ドヴォルザーク：伝説Op.59より 第3曲
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番
ドヴォルザーク：交響曲 第9番「新世界より」
(協力：(公財)坂井市文化振興事業団、大野市)



チケット発売中
〈残席僅か〉



ピアノ：牛田智大

でしょう。第1楽章冒頭、鐘の音を思わせるピアノの和音が鳴り響く中、オーケストラが暗く情熱的なテーマを奏で始めると、もう心はロシアの広大な大地へ！重厚で壮大、そしてあふれ出る甘美な感情に心を鷲づかみにされます。中学以降、ロシア教授陣のもとで研鑽を積んだ牛田智大がどんな風にこの名曲を演奏してくれるのかも大変楽しみです。

品からは、ドヴォルザークの故郷への想いが伝わってくるようです。特に第2楽章でイングリッシュ・ホルンが演奏するメロディは歌詞がつけられて「家路」というタイトルの歌曲としても知られています。アニメがお好きな方なら、最近NHKで放映された「青のオーケストラ」の最終回でこの曲が演奏されたことをご記憶かもしれません。登場人物たちがそれぞれの「新世界」を思い描き、一歩を踏み出していく姿が感動を呼びました。ここハモニーホールふくいに響きわたる生のオーケストラ・サウンドで、あなたの「新世界」を思い描いてみてください。

牛田智大氏のインタビュの拡大版をHMF新WEBサイトにて掲載！
詳しくはこちら



管弦楽：プラハ交響楽団



指揮：キンポー・イシイ



ヴァイオリン：三浦文彰

N響 大河ドラマ&名曲コンサート

2024.3.10日

16:15開場 17:00開演／大ホール
S席・車いす席 ¥10,000 A席 ¥8,000
B席 ¥6,000 バックシート ¥4,000
(小～大学生：半額)

出演／指揮：キンポー・イシイ、ヴァイオリン：三浦文彰*
ナビゲーター：山田美也子、ゲスト：坂田晃一、管弦楽：NHK交響楽団
曲目／大河ドラマ「国盗り物語」「黄金の日々」「おんな太閤記」「真田丸*」「どうする家康」テーマ音楽
ヴィヴァルディ：「四季」から「春」
スメタナ：交響詩「モルダウ」ほか
(協力：FBC)



チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：12/12(火) 友の会：12/13(水)
一般 12/16(土)

大河ドラマ60年の名旋律を 本家本元の演奏で楽しむ

1963(昭和38)年からスタートしたNHK大河ドラマ。日本の歴史に名を残した人物を中心に、その時代に生きる人々を描くこのシリーズは、開始以来多くの人々を魅了し続けています。NHK交響楽団は1965年以降、ほぼすべてのテーマ音楽演奏を担当してきました。草創期には芥川也寸志や福田勲、武満徹など日本を代表する作曲家がこぞって手がけたテーマ音楽は、いわば日本の現代音楽と多くの人に愛される大衆音楽との橋渡しの役割を果たした存在だったといえます。今回はその中から、前衛的なオーケストレーションが炸裂する三善晃「春の坂道」、戦国・幕末・昭和と異なる時代を舞台にした林光の三部作をビックアップ。さらに、1980年代に活躍した坂田晃一が登場。坂



ナビゲーター：山田美也子



ゲスト：坂田晃一

田作品の中でも特に有名な「おんな太閤記」「いのち」を取り上げ、作曲にまつわるエピソードを披露してくれます。1990年以降には、ソロ楽器をフィーチャーした楽曲が人気に。2016年の「真田丸」でお茶の間に旋風を巻き起こしたヴァイオリニスト三浦文彰が、あの名旋律を奏でてくれます。前半最後は、新作「光る君へ」のテーマ音楽で華やかに締めくくります。後半はスメタナの交響詩「モルダウ」やヨハン・シュトラウスのワルツ「美しく青きドナウ」など、「河」にちなんだクラシック音楽の名曲をお届け。長年にわたりNHKの音楽番組を支え続ける山田美也子の名司会とともに、華麗でダイナミックなおもてなし、華麗でダイナミックなおもてなしをお楽しみください。



管弦楽：NHK交響楽団



ハモニーバス(坂井市・大野市内からの無料バス)を運行！お問い合わせはハモニーホールふくい TEL.0776-38-8289(9:00~19:00・休館日を除く)



フレンドリーアート号(嶺南地域からの無料送迎バス)のお申し込みは福井県文化課 TEL.0776-20-0580まで。



ホルン：福川伸陽 オルガン：鈴木優人 ©Marco Borggreve

協賛：平野利業株式会社

福川伸陽&鈴木優人
with FRIENDS
～プラスとオルガンの芳醇な響き～

2024.3.3 日

13:15開場 14:00開演 / 大ホール
全席指定・車いす席 ¥4,000 (小～大学生:半額)
出演 / ホルン:福川伸陽、オルガン:鈴木優人
トランペット:佐藤友紀、安藤友樹
トロンボーン:青木 昂、チューバ:次田心平
曲目 / フォーレ:ピエ・イエス、J.S.バッハ:目覚めよ、と呼ぶ声あり
ブルックナー(大橋晃一編):アダージョ
モーツァルト:アヴェ・ヴェルム・コルプス はか

(共催: 福井テレビ、協力: 福井県吹奏楽連盟)

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 12/12(火) 友の会: 12/13(水)
一般 12/16(土)

3月2日(土) 金管楽器クリニック開催!

詳細、申込方法はこちら→
12月16日(土)10:00～、Webサイトでお知らせします。



トランペット: 佐藤友紀 トランペット: 安藤友樹



トロンボーン: 青木 昂 チューバ: 次田心平

プラスとオルガンが織りなす
壮大で華麗な音楽世界

福川伸陽は元NHK交響楽団首席ホルン奏者で、現在は日本を代表するソリストとして国内外で活躍する逸材。その福川と音楽上もプライベートでも「唯一無二の親友」である鈴木優人は、バッハ・コレギウム・ジャパンの鍵盤奏者をはじめ、指揮者・作曲家としてもマルチに活躍する、今もっとも注目を集めるアーティストです。この二人がタッグを組んで、ホルンとオルガン、さらには金管五重奏とコンサートは、スペシャルなプログラムでクラシック音楽ファンならずともワクワクできそう。

ブルックナーの交響曲第7番の第2楽章「アダージョ」は2021年にNHKの「クラシックの第2楽章」で放送された。いま届きたい音楽。コロナと闘うすべての人のために「初めて披露された曲。今回ハモニ二ホールふくい初めて、お客様の前で演奏することになりました。また、メインに置かれたサン＝サーンスの交響曲第3番「オルガン付き」のオルガンと金管五重奏バージョンは、これが世界初演になるとのこと。福川も「壮大な世界観を持った作品」と太鼓判を押します。

共演するのは、福川が所属するARRRASSのメンバーであるトランペットの佐藤友紀・安藤友樹、トロンボーンの前木昂、チューバの次田心平の4人。ARRRASSは、毎年サントリホールで開催される都市型音楽祭「サントリホールARRRクラシックス」のレジデント・プラス・アンサンブルとして2021年に結成。4人のコアメンバーと公演ごとに参加するアシエイトメンバーという構成でもリリースしている人気金管アンサンブルです。

福川は金管楽器とオルガンという組み合わせについて、「互いに管に空気や息を送り込んで音を出すという意味で構造的に似た楽器であり、とても相性がいい」と意欲満々。さらに、「金管楽器奏者としても楽しい人が多くてエンタテインメント性の高い音楽ができる。一方オルガンは宗教的な意味合いの強い楽器で深遠な世界を描くので、この演奏会はとても幅の広い世界をお楽しみいただけると思います」と語ってくれました。ハモニ二ホールふくいの大ホールに響きわたる、オルガンと金管楽器が織りなす壮大で芳醇な響きの世界を、存分にお楽しみください。

また公演の前日には、金管楽器を学ぶ学生を対象にしたクリニックが予定されています。後進の指導を「自分の大切な仕事のひとつ」と考えている福川は、若い人に教える際には、常に「君はどう考えているの?」ということを大切にしているそう。「自分の考えをしっかりとらせていけば、きっとステキな音楽家に育っていくと思います。中高生のみならず、どうぞクリニックに参加して、僕にどしどし質問をぶつけてください」

INTERVIEW

トリオAXIS
～ファイナルステージ～

トリオAXISの生野正樹氏に
お話しをお聞きしました



トリオAXIS

2019年にハモニ二ホールふくいのレジデントアーティストとして誕生したトリオAXIS。5年目を迎え、いよいよファイナルステージとなる2月公演は、「ステージできく」コンサートと、ペーターヴェンの弦楽三重奏曲全曲演奏会二本立てという豪華企画。ヴィオラの生野正樹にまずはペーターヴェンの演奏会についてたずねました。

「ペーターヴェンの弦楽トリオのための作品は、すべて20代の若い時期に書かれています。最初に書かれたのが作品3で、これは45分くらいかかる大曲。その次に書かれた作品8は『セレナーデ』というタイトルからも想像される通り、サロンで弾かれるような作品です。これに、作品9がつけられた3曲を合わせて全部で5曲ありますが、全曲を演奏するという機会は滅多にありません。僕は1曲ずつをメインに置いたコンサートを5回、すでにやってきていて、ハモニ二ホールふくいでの演奏会はそれらを一堂に集めるとい形です。まさにAXISの5年間の集大成といえます」

一方、「ステージできく」の方は「For KIDS」のタイトル通り、0歳から子どもに向けたコンサートで、小さな子が飽きないように工夫を凝らしたプログラムを考えているそうです。

「チャイコフスキー『くるみ割り人形』では曲のイメージの助けとなるよう、テーマとなる国の国旗を用意する予定です。次に、特に小さい子どもはアップテンポの曲が好きなのがが多いので、リズムミッドな曲のコーナーを。さらに、ヴァイオリンの佐久間君とチェロの奥泉君に演奏してもらって僕が歌う『歌のおにいさん』コーナーもやるつもりです(笑)」

5年経って「いい感じのアンサンブルになってきた」というトリオAXIS。ホールのレジデントアーティストとしての活動はこれでファイナルとなりませんが、今後も、少人数のコンサートや、レストランやカフェでのライブなどを通して活動を続けていきたい、と生野。

トリオAXIS ～ファイナルステージ～

チケット発売中

協賛: 福井テレビ

2024.2/17(土)

「ステージできく」トリオAXIS for KIDS

●大ホールステージ / 開場 13:30 開演 14:00 ※50分(休憩なし)プログラム
●ステージA・B セット券 ¥5,000(会員・学生割引なし)
出演 / トリオAXIS(ヴァイオリン:佐久間一、ヴィオラ:生野正樹、チェロ:奥泉貴志)
曲目 / チャイコフスキー:「くるみ割り人形」から 序曲、マーチ、中国の踊り
プログラム: ハンガリー舞曲 第5番
日本の童謡 はか

2024.2/18(日)

トリオAXIS ペーターヴェン弦楽三重奏曲全曲演奏会

●全席指定・車いす席 ¥3,000(小～大学生:半額)
●【ステージA・B セット券】¥5,000(会員・学生割引なし)
出演 / トリオAXIS(ヴァイオリン:佐久間一、ヴィオラ:生野正樹、チェロ:奥泉貴志)
【ステージA 小ホール / 13:00~14:30】 曲目 / 弦楽三重奏曲 op.3、セレナーデ op.8
【ステージB 小ホール / 15:30~17:30】 曲目 / 弦楽三重奏曲 op.9-1、op.9-2、op.9-3

久々の子育てで
自分がどう変わっていくのか。
ちよつと楽しみです。



よした・たまよ ●愛知県芸芸大学院修了後、新国立劇場オペラ研修所第6期修了。ルイーダ、エッシェンバハ、ジョン・スダーン、パッティスターニと共演し、2016年サントリーホール30周年記念ズービン・メータ指揮ウィーンフィルハーモニー管弦楽団との「第九」ではソリストに大抜擢。第6回静岡国際オペラコンクール最高位、三浦環賞受賞。第12回岩城宏之音楽賞受賞。

「実は熱中していたのはピアノで、歌う事はそう好きではなかったんです」とさりりと話す吉田さん。合唱部にいた中学時代、県の音楽コンクール独唱の部で1位になり、高校の音楽科から「ぜひ声楽で」と誘われて道が定まりました。

愛知県の音楽大学大学院修了後は、新国立劇場オペラ研修所の研修生に。150人の応募者の中で合格者5人という難関でした。ふたを開けると同期は全員東京の音大出身で、流暢に外国語を話し、すでに原語で何本かオペラを歌い切る実力者揃い。吉田さんは「ひとつずつ課題に取り組んでいくしかない」と腹を決め、外国人講師から原語歌唱での表現法や演技を学び、一歩ずつオペラの本質に近づいていきます。

そして研修期間を終え、文化庁の留学生として1年間滞在したイタリヤで、意識はさらに進化。「圧倒的な太陽の光、空の青も花の色も見え方が違う。この国で生まれたオペラの登場人物には、この環境に芽吹いた人々の感性が反映されているのだと、解釈が深まりました」

吉田さんは、声楽を学び始めた直ちに、歌詞を「語学」として理解する力をつける重要性を強調します。楽譜に対訳を書くだけで曲の内容を理解した事にはならないし、表現される

第2子が10月に誕生。「子育ては9年ぶり。体調が変わる年齢でもあるし、何とか乗り越えたい」と言いつつ、実に楽しそう。「大学時代『あなたの歌は冷たい。いい声だけど何も無い』と言われ、ショックを受けたことがあって。それが第1子出産後に共演した外国の奏者から、『あなたはマザーだね。歌が温かい』と言われたんです」。人生そのものが表現の構成要素なのだ実感し、自分の音楽に自信を持てるようになったと吉田さん。「今度はどう変わるのか自分でも楽しみなんです」とお茶目な笑顔を見せました。



2023年8月 / 第9回静岡国際オペラコンクールプレイベント(会場:静岡文化芸術大学講堂)

- 今後の活動
- 2024年1月28日(日) 公開オーディション審査員 / ハーモニーホールふくい
 - 2024年2月14日(水)、15日(木) NHK交響楽団第2006回 定期公演 Bプログラム / サントリーホール
 - ファリャ: バレエ音楽「三角帽子」ソプラノノロにて出演

越のルビーアーティストとは、(公財)福井県文化振興事業団運営の「越のルビーアーティストバンク」に登録する福井県出身もしくは在住のプロの演奏家のこと。このアーティストバンクの活動に(公財)げんてんふれあい福井財団にご支援をいただいております。

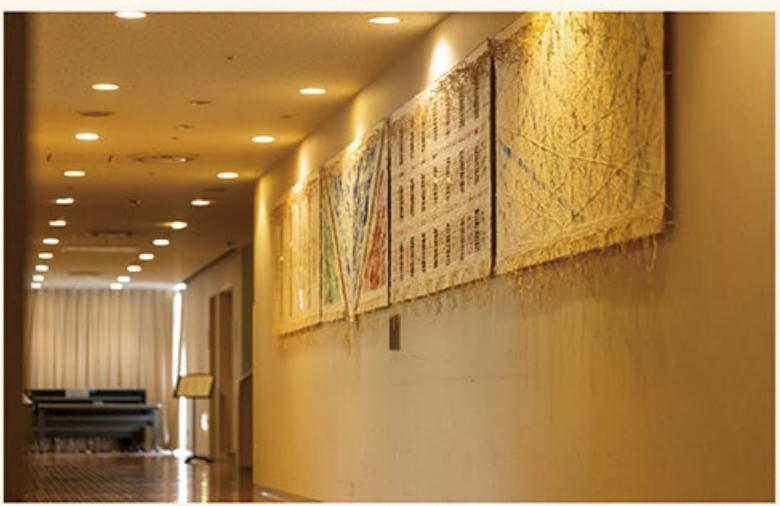
公式ホームページでは「越のルビーアーティスト」の演奏動画もご覧いただけます。
<https://www.hhf.jp/artistbank/>

私の好きな

ハーモニーホールふくい



DUO×DUO
(写真左から/福田進一・鈴木大介・大萩康司・荘村清志)
巨匠イエベスに認められ50年以上にわたり第一線で活躍するバイオニア荘村清志と、パリに学びバハから現代までの驚異的なレパートリーで地帯を開拓し続ける福田進一。このふたりのレジェンドに加え、新たな感覚で次代を拓く実力派鈴木大介と、若手の筆頭格として活躍目覚ましい大萩康司まで、世代やキャリアは異なりつつも、想いを重ねてきた名手が集う唯一無二のアンサンブル。



アーティストが集うラウンジから続く壁面に展示されている作品。大ホールアーティストラウンジには、長田和也さんによる和紙作品<SYMPHONY>が展示されています。

懐かしさと新しさが同居する
越前和紙のオブジェ『FOUR SEASONS』

小ホールに出演されるアーティストの記念撮影スポット。越前和紙作家・長田栄子さんの作品『FOUR SEASONS』は、日本の四季が4枚の和紙作品で表されています。越前和紙の素材な風合いや質感、素材とは対照的に鮮やかに発色する色味が、演奏家の感性をくすぐるのでしょうか。

「せっかく撮るなら、この作品の前で撮ろうよ」。クラシックギターという繊細な音色を操る名士たちの心にも、自然素材の中にモダンさを放つこの作品が何かを訴えかけたのでしょうか。

開館から26年の時を経て、あせることなく、この場で演奏家の皆さんの「悲喜交々」を静かに見守ってくれている作品です。

カーテンコール



荘村清志・福田進一・鈴木大介・大萩康司
ギターの饗宴 DUO×DUO
2023年10月20日(金)開催

プログラムのフィナーレは4人での演奏で「カルメン組曲」を。繊細な音色で奏でられる聴き馴染みあるメロディに耳を傾けたお客様は「心に沁みました」という感嘆のコメントを残して帰路につかれました。

- 音も雰囲気もあたたかかった。(60代/女性)
- 一流ギタリストが奏でるものは「素晴らしい」の一言に尽きる。(70代/男性)
- 4人の個性が生きていました。(60代/男性)
- ソロ曲では味わえない、厚みのある曲ばかりでした。演奏家の皆さんからホスピタリティを感じました。(40代/男性)



左から 山内虎太郎さん
山内主江さん (大野市)

福井でこんな豪華メンバーが揃う機会は滅多にないし、その期待に十分応えてくれる演奏。今まで一番「耳が気持ちいい」コンサートでした。私は大萩さんの20年来のファン。CDを子守歌替わりに聴いていた息子は、「ギターってこういう風にいるんな音を出すんだ」と感心していました。



高橋典子さん (福井市)

音楽全般が好きですが、秋はアコースティックギターの音色が聴きたくなります。今回は複数のギターの音が素晴らしい調和していて、すごいなと思いました。知っている曲はより楽しめましたし、トークは面白くてもっと聞きたかったです。仕事を調整して来ることができて、本当に良かったです。

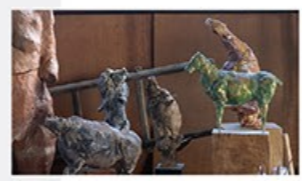


彫刻家 西井武徳



イメージ、素材、モチーフの3つを掛け合わせて彫り進める実感を手に、「命」を削り出す

遠くからでもそれとなく何かに見え
るかたまり。近寄って見ると意外にも
大きく、動物の形であることがわかり
ます。西井武徳さんは動物をモチーフ
にした作品を制作する彫刻家です。
学生時代は石を素材に制作をしてい
ましたが、故郷へ戻り調達の難しさか
ら木を扱うように。素材の違いについ
て西井さんは、「石は中心に向かって
研る作業で、木は削く作業。固さ、重
さなど全く違いますが、彫る実感は両
方ともにあります」と話します。
動物をモチーフにするのは「量感が
ある生き物を彫りたいから」。サイ、馬、
牛、豚、ライオン、ねこ、鳥などさま
ざまな動物を生み出してきました。た
だし、忠実に精巧に彫ることが目標で
はなく、素材から命を彫り出すことが
テーマです。「例えばライオン、実は
シュッとした顔立ちと体つきですが、
だからといってそのとおりにには彫らな
い。僕のライオンのイメージをどう
やって入れ込み、彫り出していくかを
考えています。彫る前に素材を見つめ
る時間のほうが長いですね」。
近年の作品の特徴は彫らないこと。
作品に墨汁の線を残し、作業しようと
した跡を残しています。「彫らないと
いけない、でも彫りたくない。形を突
き詰めた気持ちはあるけれど、その
寸前でやめる。このやめ時が難しい」
と悩みつつ、彫刻刀を置く西井さん。
彫らないことで逆にモチーフの生命力
を引き出し、彫刻の魅力を見せつける
作風になっています。作品に付着した
金箔は「色ではなく光そのものの表現」
を狙って使用。金箔を粘土や鉄といっ
た素材と同等に捉え、気に入らなけれ
ば躊躇なく削るそうです。
「素材から命がうまれる瞬間、木か
ら命を彫り出す作品を作りたい。自分
の中に創作が当たり前にある日常を過
ごしたい」と制作を軸にした生活を見
据えていました。



アトリエにあるたくさんの動物たち。動物を垂直に立たせたユニークな造形も西井さんの表現のひとつ。



令和4年度福井県若手美術家育成事業「ふくいアートアタック」作家に選ばれ、銀座で発表。県内外でも発表を続けている。

にしいたけのり●1978年福井市生まれ。文星芸術大学彫刻科卒業。多摩美術大学大学院彫刻専攻修了。2018年越後妻有アートトリエンナーレ(新潟県)、2019年福井県立美術館開館40周年記念企画展「Re born展」、2022年個展(龍川宿若狭美術館)、2022年、2023年と2年連続で福井県総合美術展彫刻部門福井県知事賞。2023年「第86回新制作展」入賞。

■活動報告
第86回新制作展 受賞作家展「彫刻」
2024年2月5日(月)～2月15日(木)
ギャラリーせいほう(東京・銀座)

アートの息吹

平野純薬本社ビル(福井市)



2009年に完成した社屋のテーマは「近未来」。ガラス張りの建物は、さながら都会のインテリジェントビルのよう。近くの福井県立図書館や福井市美術館とも調和している。

平野純薬株式会社

1969年に平野純薬工業株式会社設立。2009年に現在の社屋移転と共に平野純薬株式会社に社名変更した。臨床検査用試薬・研究用試薬などを中心に北陸三県にシェアを拡大している。グループ会社としてエイチアンドケー(エンゼル調剤薬局)、理化学機器販売の真昇ELGがある。福井市下馬2-1420

※「アートの息吹」は県内企業のアートを通じた社会貢献活動をご紹介します。

スタイリッシュな外観が目を引き
く平野純薬本社。建築を学ぶ学生
たちのアイデアが詰まったこの社
屋は、「ふくい建築賞2015」の
最優秀賞も受賞しています。
建設にあたり、「働きやすく
社員や家族が誇れる建物」と考
えた平野洋一社長。「若者の自由
な発想なら面白いものができるの
では」と、系列の調剤薬局を手掛
けていた福井工業大学建築土木工
学科の五十嵐啓研究室に設計を依
頼しました。学生たちは平野社長
の前で2週間ごとにプレゼンし、
大胆な吹き抜けや工夫を凝らした
トイレなどが誕生しました。
完成後、見学に訪れた学生らは、
自分たちのデザインが実現できた
幸運に感謝。当手を振り返って平
野社長は「経験が社会に出て何ら
かの役に立っていたら嬉しい」と
言います。

ぶんかの足跡

山川登美子

(歌人)

明治後期にブームとなった文芸誌
『明星』の歌人・山川登美子は、小浜藩
の上級藩士という由緒ある家に生ま
れ、才色兼備の誉れ高く成長しました。
大阪の梅花女学校で教養を磨き、短歌
の才能を開花させ、与謝野晶子らと共
に注目を集めます。しかし、これから
という時、父親の強い勧めで結婚し、
歌の道を断念。ところが翌年、夫は結
核に倒れて亡くなり、登美子は人生の
新たな選択に直面します。そこで選ん
だのは、やはり「歌」でした。
数年間の空白を経て表舞台に返り咲
いた登美子は、晶子らと共に歌集「恋
衣」を刊行。中には「白百合」と題する
百三十一首が収められています。こ
れは与謝野鉄幹から白百合の君と称さ
れたことに由来します。結婚前から鉄
幹に抱いていた恋心を歌の世界で昇華
させるかのように、登美子はその後も
情熱的な歌を詠み続けています。
晶子との対比で、従順ではかなげな
イメージがある登美子ですが、歌から
は深い教養と同時に芯の強さが見て取
れます。病氣により29歳という若さで
生涯を終えましたが、歌壇に確かな業
績を残し、短いながらも充実した人生
だったようにも思えます。

【やまかわ・とみこ】

1879(明治12)年遠敷郡竹原村(現小浜市)、山川貞蔵の4女として生まれる。大阪のミッションスクール梅花女学校を卒業。与謝野鉄幹の東京新詩社『明星』の社友となり、与謝野晶子らと出会う。親の勧めにより親戚筋の山川駐七郎と結婚するも、死別。婚家を離縁して生家に復籍し、1904年に日本女子大学英文科予備科に入学。『明星』に返り咲き、晶子、増田雅子と共著『恋衣』を刊行した。その後、夫から感染した結核により1909年、満29歳で死去。



山川登美子記念館
登美子の生家が小浜市に寄贈されたことから、2007(平成19)年に開館。建物や庭は国登録有形文化財指定。身の回りの品や歌集などが展示されており、敷地内には登美子の辞世の句が刻まれた歌碑もある。
住所/小浜市千種1-10-7
電話/0770-52-3221

